

# 時習 十一月号

十一月 十七日

## 人類史上初めての快挙！

「惑星探査機」はやぶさ「五〇〇点満点」

「七年間、六〇億キロの

旅。「はやぶさ」は帰還が予定より遅れたため、カプセルは寿命を三年オーバー。

それでも帰還まで機能が完全に働いていたため、微粒子



子採取にも期待が寄せられていた。JAXAの川口淳一郎教授は「カプセル回収で四〇〇点、カプセルの中に何かが入っていれば五〇〇点満点」と話していた。

まさに五〇〇点満点、小惑星イトカワから、微粒子が一五〇〇個回収されたのです。人類史上初めての快挙を日本のチームが成し遂げたのです。太陽系の成り立ち、地球の成り立ちを探るのに大きな成果であると期待されています。日本がこの分野の世界最先端に立ったわけです。

日本科学力、万歳といったところですね。

「はやぶさ」が、十一月二十七日から三十日まで九州で始めて、佐賀県宇宙科学館で展示されます。是非行ってみたいでしょう。

いにしえまな

## 古学び くちよと振り返り

古典の学問のことを、こう言いました。

「学ぶ」の語源は、「まねぶ」。真似るということです。昔から、学習の基本は、よいお手本を見つけて、真似ることでした。教えてもらうのではなく、自分から真似てみたいことを見つけてくることなのです。

「いにしえ」とは、「往いにし方」、つまり過ぎ去った方角のことです。過去には数え切れないほどの人生、数え切れないほどの思いがあります。まさに、お手本の宝庫です。

教育も同じ面があります。今、新学習指導要領にて、『全ての教科で言語力の充実を』と叫ばれています。つまり「思考力」「表現力」の向上です。（昭和五十五年の学習指導要領には、次の事が書いてあります。）

「学校生活全体における言語環境を整え 児童の言語活動が適正に行われるように努めること。」とあります。

しかし、どのように時代が変わろうと以下の二点は揺るぎないことです。

基礎基本の反復練習による習得

わかったことや考えたことを相手に

正確に伝わるように表現すること。

子供たちは、いつの世も、友と学び合う場

が必要で、どう伝えるかの手段を考え、互いに考えを磨き合つのです。

そのためにも、計算一つでも、漢字一文字でも、おろそかにしない集中力が大切です。昔も今も、学校が学び舎であることは、何も変わっていないのです。今後ともご協力をお願いします。

### 楽しい芸術劇場開催

「ロボットの音楽

旅行」コンサート

昨年は、インフルエンザの流行でできませんでしたが、今年は十一月十七日に三・四時間目に



全校で芸術劇場を鑑賞しました。マリンバとビブラフォンとドラムのプロの演奏家でした。埼玉県から来ていただきました。

第一部は、お話しの箱

第二部は、音色の箱

第三部は、手遊び・歌遊びの箱

みんなで、音楽を楽しみました。語りと音楽の世界、いろいろな音色の音楽、世界の音楽、体を使った音楽、演奏者の方からは「とにかく反応が大変よかった。聞く時と楽しむ時をわかっていたので、とても演奏しやすかった。」という感想をいただきました。このことを聞いて大変嬉しく思いました。ありがとうございました。